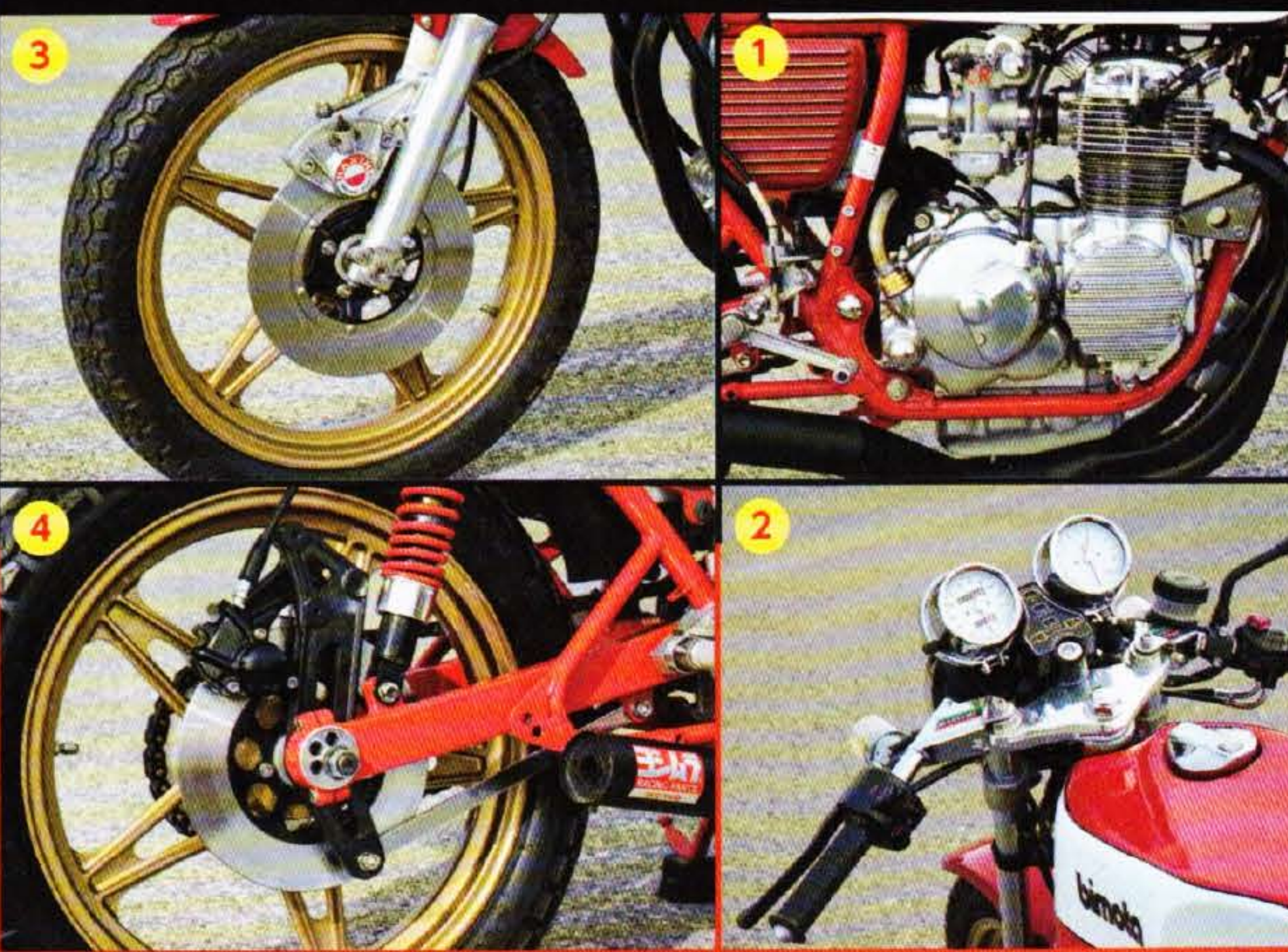


往時を知るからこそ再現できた
貴重なカフェレーサールック



▲渡辺さんの愛車。タンクやシートまわり、フロントフェンダーは希少なビモータのオリジナル品、当時モノにこだわるマニア垂涎の逸品だろう。渡辺さんは海外のコレクターから、こうしたレアパーツを輸入するノウハウも持っているのだ



- 1 エンジンはヨシムラφ54.5mmピストンキットに408cc専用クランク(ストロークは50mm)を組み合わせた466cc仕様で、ヨシムラST-1カム、BRC製ビッグバルブなど組み込みチューニング。吸排気はCR+BRC手曲げマフラー(品切れ中)だ
- 2 フロントフォークとステムまわりは純正。セパハンにはマーベリック製だ
- 3 前後ホイールはビモータ製鍛造でサイズはともに2.15-18。Fブレーキはマキシム。スイングアームもビモータ。リヤショックはコニの初期型ボディを装着する

車との外観の違いはエンジンの刻印ぐらいです。これはウチが商売として言うわけではなく、先ずの通り入手したエンジンを開けてガスケットやシールの交換は早目に行うべき。ここを押さえておけば、まだまだ現役として楽しめるバイクなんです。ヨシムラは「そして本業となる部品販売では、ヨシムラの細部を知るからこそ新製品もリリースが続く。」「リヤブレーキランプもバックミラーも、そしてその他のパーツも多くが廃番となり時間も経ちました。本物のデザインも私たちが伝承しなければすぐに忘れられる時代。CB400FOURが好きだからこそ、皆さんの期待にまだまだ応えていきたいと思います」

ヨシムラ用リプロパーツは今も進化中だ



左はミラー筐体部の厚さやステー長とその曲がり具合などデザインにこだわった純正タイプ・バックミラーで7920円(左右セット)。右、米・Gulf製鉱物油のBLAZEはBRCのヨシムラ向け推奨品。15W-50と10W-40を季節で使い分ける

国産「ヨシムラ」の
原点と言うべき名車!



Honda DREAM CB400FOUR-I

1974年発売のCB400FOURは前身となったCB350 FOUR (1972年発売)のエンジンをベースにボアを4mm広げ、軽量で排気効率に優れる4in1マフラー、後退させたステップやスロングタンク、コンチネンタルハンドルなど、カフェレーサースタイルを採った。その初期型は408ccだったが、中型二輪免許制度が施行された'76年にはこれに合わせて398ccモデルも国内販売。低くフラットなコンチネンタルハンドルを装備した写真のCB400FOUR-IとセミアップハンドルのIIが選べた。中古市場では398cc車が特に価格高騰している



ショールームに飾られたヨシムラに跨る渡辺美視代表は、今年で69歳になる。「今も引っ張り出して、ツーリングに出かけることは多いです」と。構造が単純だから一度ちゃんと組み上げれば、よほどの事が無い限り壊れることはないバイクです、とも

Check out the latest on the Honda CB400FOUR

'70年代ミドル4発の金字塔
ヨシムラの現在地!

初代のデビューは1974年。発売50年超を経たホンダCB400FOURには今も熱狂的な支持者は多くいて、未だに実走を楽しむライダーも少なくない。そんなヨシムラの今を、同車の専門店として知られるBRC、アゲインの2店への取材を通して覗いてみる。



BRC ビーアールシー

憧れの名車を保持し続けられる
貴重な絶版バイク部品専門店

1991年の創業以来、この2026年で35周年の節目を迎えた徳島のBRC。現在は絶版車部品専門店を謳うがかつては車両も販売した経緯があり、今もそんな渡辺美視代表の知識やスキルに頼る愛好家は多い。そんな同店ではこれまでのヨシムラの流れや、部品市場の現状を聞いてみた。



BRCのHPはこちら

「東京のバイク販売店で働いた後、'91年に徳島へ戻りバイク屋を始めましたが、当時はバブルが弾けて景気が冷え込んでいましたから、新車を扱わせてもらえなかった。そこで「BIKE RYUTSU CENTER」の看板で、中古車販売店としてスタートしました。当初から古めの中型ネイキッドはよく売れて、中でもヨシムラは特に動きが良かったものです。当時は車販も行っていた淡路島のプロダクトMカンパニー(現PM C)さんなどに、Zと一緒に入荷してもらいながら商売を広げうちに、ヨシムラ専門店みたいになっ

ったんです(笑)」と渡辺さん。ただ、それも'90年代後半に各地でオークションが確立して、専門店が通販していた中古車も普通のバイクショップで買えるようになり、注文は減少。渡辺さんは'00年中古車販売に見切りをつけてBRCに店名変更し、絶版車部品専門店として再出発、現在に至る。「ヨシムラは車体もエンジンも構造が単純だから、一度オーバーホールすれば致命的な破損というケースは稀ですよ。逆に一度も開けていないエンジンは、ヘッドやシリンダーのガスケットからオイルが滲み出す。特に今の化学合成油を使うと顕著ですね。でもそれもガスケットの劣化が原因ですから、新品に換えれば問題ない」車販からは離れたが、と前置きしながら渡辺さんは続ける。「398ccエンジンはコレクターズモデルっぽく高値が続いていますが、乗ってみたいというライダーには408cc車がお勧めですね。値ごろ感のある綺麗な中古車が出てきますから。398cc



有名河川、吉野川河口そばに店舗を構えるBRC。今はwebを利用したECがほとんどという。ヨシムラ以外にも'70年代人気車向けリプレイスパーツを軸に販売する